広報 おおだて

7月1日号（No.279）

◈昭和43年3月1日第3種郵便物認可（1部5円）

◈ 編集と発行 ── 大館市役所（電話）49－3111
◈ 発行年月日 ── 昭和55年7月1日
◈ 発行日 ── 毎月1・16日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。

住民登録
6月1日現在

	前月比
人口	72,655（+30）
男	34,717
女	37,938
世帯数	21,030（+50）

夏到来！ 子供を水の事故から守りましょう

楽しい夏がやってきました。子供さんのある家庭では、海や山へのレジャーなど楽しいプランを立てておられることでしょう。

そこで、注意が必要なのは子供の事故です。とくに夏は〃水による事故〃が最も多い時期です。

水による犠牲者は交通事故の約二倍

昨年の六～八月の三カ月間に海や川、池、あるいは用水堀などで亡くなった子供（中学生以下）は、全国で五百七人を数えています。これは同じ時期に交通事故で亡くなった子供二百七十六人に比べ、ほぼ二倍にもなっています。当市では、昨年は一人、今年はすでに二人の幼い命を増水した長木川で失っています。

このような水による事故のほとんどが、保護者がそばにいないときに起きています。夏は水遊びがどうしても多くなりますふだんから子供の遊び場所を知っておき、危険と思われる所には子供たちだけで行かせないようにしましょう。

そこで、子供を水の事故から守るため学校では、そして家庭ではどのように指導しているかを尋ねてみました。

戸外での遊びは三人以上で

まず、長木川沿線を学区に含む桂城小学校生徒指導主事の藤島祥悦先生は、次のように語ってくれました。

藤島祥悦先生

「川や沼などプール以外での水泳は禁じていますが、自然と親しむことも必要ですので、川での魚釣りなどは規制していません。しかし、川などはもちろん戸外での遊びには、万一に備えてだれか一人が危険にあった場合に、一人が救助を、もう一人は連絡のためにということで必ず三人以上で行くよう指導するとともに、家庭通信などで父兄の方々へも、子供の遊び場所などについて十分注意されるようお願いしています。また、夏休み中は、各町内をそれぞれ担当する先生がたが、家庭訪問とあわせて危険場所を重点に町内を巡視するなどして、事故防止にあたることにしています。」

子供の行先の確認を

また、長木川原を子供二人と散歩中の水門前に住む主婦、菅原哲子さんは、

菅原哲子さん

「川がすぐ近くで、増水時はとても危険です。ふだんでも川原での子供だけの遊びは禁じています。ただし、ヒマをみつけてはこうして川原で子供といっしょに遊んでやるようにしています。また、子供が外出するときは、どこへ行くかを必ず確かめるようにしています。」と話してくれました。

夏、ましてや夏休みは子供たちにとって解放感に満たされる時期です。それは事故のもとにもなります。ほんの少しの油断で、一瞬のうちに悲しみのどん底へ……このようなことのないよう十分に注意して、夏を楽しく健やかに過ごしましょう。

広報 歳時記

7月

陰暦異名・文月（ふみづき）
花暦・はす（雄弁）
誕生石・ルビー（熱情）

7月7日は、天の川をへだてた索牛（けんぎゅう）星と織姫星が、年に一度のランデブーをするという宇宙のロマンスが実る日、七夕です。

この日は、短ざく型の色紙に願いごとを書き、笹竹に結びつけて星に祈ります。この行事が活発化したのは江戸時代からで、幕府が年中行事としてとりあげたのがきっかけといわれています。夏の暑い夜（旧暦の7月7日は現在の8月中旬）庭先などに笹竹を飾り、夕涼みをかねて美しい星空をあおぎみながら行われたのでしょう。

現在の7月7日といえば、梅雨期の最中にあたり、残念ながら美しい星空を見るチャンスはほとんどありません。それどころか、逆に大雨による災害が発生するなど、ロマンチックな星祭りどころではない場合も少なくありません。ぜひとも七夕の日ばかりは晴れて、輝く星空をながめたいものです。

＜7月上半期の主な行事＞

1日(火)・愛の血液助け合い運動（～31日）
青少[redacted]
2日(水)・作占[redacted]
3日(木)・大館[redacted]
連合[redacted]
8日(火)・交通[redacted]
13日(日)・盆木[redacted]
14日(月)・綴子[redacted]

高齢者の皆さん！あなたの豊かな経験と能力を生かしましょう

市では、高齢者の「生きがい」「健康の増進」「収入」「仲間づくり」を目的とした〃高齢者事業団（仮称）〃の組織づくりをすすめています。

この事業は、最近、会社や事業所等で、新たに人を雇うほどではないがきまった時間内に、一定の仕事処理が必要な補助的、短期的な仕事が増加していることから、働く意欲のある高齢者で「働く組織」をつくり、そのような会社等の要望に応えようというものです。

市内には今、55歳以上の高齢者が約13,000人おりますが、そのうち老人クラブ会員を対象にアンケート調査を行った結果、現在〃働きたい〃という方が、458人もおります。未調査の方々の中でも「ぜひ、働きたい」と望んでいる方は次へご連絡ください。

また、この事業団は、今年10月までに組織化したうえで、会社や一般家庭等からの事務処理、集金、草とり、子守などの各種委託に応じることにしていますので、ご協力をお願いします。

※ 連絡先・市役所商工観光課商工係
☎49－3111・内線283

事故をよぶ 酒が 疲労が スピードが
―死亡事故激増中―

安全は家庭の中からしつけから

秋田県内では、6月13日から15日までの3日間で7件の死亡事故が発生しています。

大館警察署管内では、今年の1月から6月15日まで、死者4名（昨年は0名）となっています。

事故原因の主なものは、ドライバーの前方不注視、安全速度違反などで、歩行者は車の直前直後の飛び出しなどとなっています。

交通事故防止は、ドライバーと歩行者の交通安全に対する自覚が一番大切です。ご家庭で交通安全に対する話し合いをしていただき、交通事故をなくしましょう。